



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第一七八号）

立夏りっか

五月五日

正五九参り

伊勢信仰を全国へ広めた伊勢の御師おんし。先日、岩井いわい田家未公開資料特別展「館町たからまちの御師」の会場には、御師が配布した御札「御祓大麻おはらいたいま」の版木はんぎが展示されていました。

今でこそ、伊勢神宮の神札は伊勢神宮で授与されますが、明治時代の神宮改革までは御師によって配布されていました。その御札を印刷した版木ですが、月参、代替、大々御神楽おおくぐら、天下泰平檀家中安全だんかなど、様々な祈願名目が刻まれていました。個人の願主の祈願に応じた御師の姿がわかります。また、それらの祈願を簡単に差し替えて刷ることができるよう工夫が施されている版木もありました。

そのなかでも、「正五九御祈禱」という見慣れない言葉がありました。「しようごく」と読みます。調べてみると、今も神社によっては、正五九参りの御祈禱を受け付けているところもありました。

正五九参りは、正月、五月、九月の四か月ごとにお参りするという習慣です。一年の節目節目に神社に参拝すること。神社によっては三年間続けるところもあるようです。

これは、やはり稲作と関連していると考えられます。旧暦の正月は今の二月にあたります。伊勢神宮でも毎年二月一七日は一年の五穀豊穰を祈る祈年祭が行われますが、農家にとっては農耕を始めるにあたって農事の無事と豊作を祈る大切な時期にあたります。

そして旧五月（現六月）は、水田では早苗を植え付ける田植えが行われるとき、そして旧九月（現十月）は黄金色に染まった稲穂を刈り取る収穫時期になります。

御師の「御祓大麻」に残されていた「正五九」という言葉に、古の人々の祈りを見たように思いました。

文 千種清美

